

◎共創センターの記念シンポジウムを開催 茨城大学人文学部

茨城大学人文学部の市民共創教育研究センターの発足記念の講演会・シンポジウム「我がまちの将来ビジョンを語るー市民共創教育研究センターへの期待」が11月2日午後1時に人文学部内で開催され、100人を超える参加者が集まり、白熱した討議が続く中で、盛況のうちに終了した。



シンポには、小林宣夫茨城町長、小谷隆亮大洗町長、内田俊郎鹿嶋市長、草間吉夫高萩市長、大久保太一常陸太田市長、三次真一郎常陸大宮市長、高橋靖水戸市長の7首長が出席、人文学部側からも伏見厚次郎学部長、斎藤義則同センター長・教授などが参加した。

シンポは、佐川泰弘評議員・副学部長の司会役で午後1時にスタートした。冒頭、伏見学部長が開会の挨拶をし、記念講演にはNPO法人の竹本徳子ナチュラル・ステップ・ジャパンの代表理事が登場、持続可能な街づくりに向けて努力する北欧スウェーデンの先進的なケースを紹介した。



講演終了後に斎藤センター長が、センターの中身や役割などについて説明、午後2時半過ぎから、茨城県内の7首長をパネリストによる討議が始まった。

トップバッターに立った小林町長は、“安全・安心で活力あるまち”を目指し、地域社会の構築に向けてまい進する現状を説明、人口減の進む中でまち作りを勧めている小谷町長からは、地域の課題に向けてのセンターの研究・提言への期待が示された。

内田市長からは、震災に強いまちづくりがキーワードの鹿嶋市の将来ビジョンの説明があり、草間市長からは、野心的な「こころの里 City」構想が示された。センターへの期待について、大久保市長は、「地域の課題等の整理」など、三次市長からは、「集落支援対策、人材育成などへの協力」が指摘された。高橋市長からは、大学・学生を巻き込んだまちづくりへの期待が示された。



シンポに先立って、「茨城大学人文学部と茨城県自治体との円卓会議に関する申し合わせ」に、出席した7首長と茨城大学側が調印した。シンポの撮影には、村上ゼミのゼミ員が当たった。



(終)